

原 著

気道緊急例における輪状甲状靱帯切開 (cricothyroidotomy) による確実な外科的気道確保

森 脇 義 弘, 岩 下 眞 之, 石 川 淳 哉, 田 原 良 雄,
松 崎 昇 一, 豊 田 洋, 小 菅 宇 之, 荒 田 慎 寿,
春 成 信 之, 鈴 木 範 行, 杉 山 貢

横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター

要 旨: 過去 5 年間に, 経口気管挿管困難例 53 例中 22 例に対し輪状甲状靱帯切開 (cricothyroidotomy, CTT) による気道確保を考慮予定し, 19 例に実施した (来院時心肺停止 16 例, 来院後心肺停止 1 例, 病棟で挿管困難 1 例, 気道緊急外傷で気管挿管困難 1 例). 19 例中 3 例では経口的, 別の 3 例では盲目的経鼻的に気管チューブ挿入を先行させたが不能か失敗に終わり CTT に切り替え, 13 例ではチューブ挿入は試みず最初から CTT とした. 19 例中 2 例に輪状甲状靱帯穿刺 (needle cricothyroidotomy, NCTT) を先行させた. 院外での実施例も含めた全例で, 一度の操作で切開孔からの気管挿管に成功し, 手動的換気でも人工呼吸器でも十分な加圧が可能であった. 皮膚切開からチューブ挿入, 位置確認, 換気開始まではおおむね 2~3 分であった. 術中出血やチューブ挿管困難はなかった.

Key words: airway emergency (気道緊急), surgical airway management (外科的気道確保), cricothyroidotomy (輪状甲状靱帯切開)